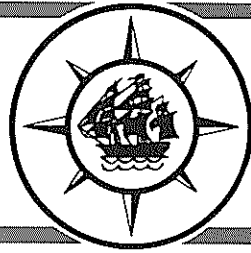


## Operation Raleigh News

Operation  
Raleigh

DENSO

No.29

昭和62年(1987)3月5日(休)  
毎月1回発行●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会  
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号  
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装株式会社のご協力で作られたものです。

WELCOME TO JAPAN

## ゼブ号那覇新港へ

1月21日(休)グアム島を出航し、マリアナ諸島から南西諸島へ進路を取っていた帆船ゼブ号は、3月1日(日)午前11時すぎ沖縄那覇新港埠頭に無事入港しました。稲生清ORJC委員(日本電装専務)、寺下英明日本フェイズ委員長をはじめ事務局員が多数出迎えましたが、沖縄県知事代理、ミス沖縄、沖縄きもの女王ほか一般市民にも大歓迎を受けました。

## 沖縄では清掃奉仕や座禅・空手も

ゼブ号にはピーター・マスターズ船長、オーナーのニック・プロトン夫妻ら乗組員7人とベンチャラー16人合計23人が乗っており、グアムから加わった日本代表の渡辺美和さん戸島仁嗣君も含まれています。

那覇新港では歓迎レセプションが盛大に行なわれ、その後港内を体験クルーズ、ベンチャラーたちはキビキビした活動ぶりを見せました。

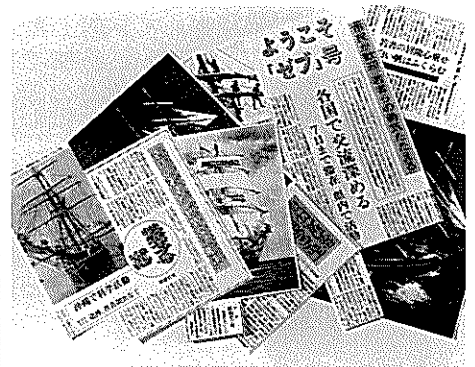
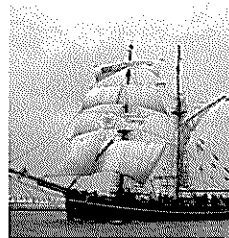
ゼブ号は2日から4日まで船体整備をし、5日、6日は一般公開、体

験クルーズを行ないます。その間ベンチャラーたちは沖縄県立博物館見学、首里周辺史跡巡り、文化財や外人墓地の清掃奉仕、座禅、空手体験入門などに参加します。

7日(土)には那覇新港を出発、黒潮によって一路名古屋に向かいます。名古屋港には3月19日(木)到着の予定です。



▲那覇新港に入る帆船ゼブ号



▲新聞でも大きく報道された

▲体験クルーズ風景



▲歓迎レセプション(那覇新港ターミナル待合室)

# オペレーション・ローリー日本フェイス

# 20

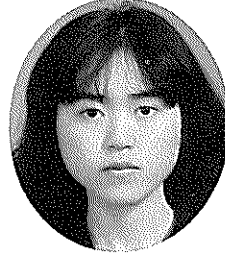
## 北海道プログラム参加者

## 本州プロク



よしだ けん  
**吉田 憲**

22歳。北海道大学経済学部在学中。アマチュア無線の免許取得のほか、剣道・少林寺拳法の有段者。「尊敬する坂本龍馬のように自分の信じた道を進みたい」



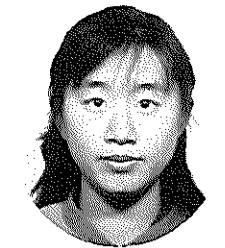
おおいし たみこ  
**大石 妙子**

20歳。静岡女子大学文学部在学中。通訳経験あり。国内外の青年との約一週間の共同生活で体験した「国境を越えた連帯感」が忘れられず、今回ORに参加。「みんな同じ人間なんだ」



てらやま げん  
**寺山 元**

20歳。北海道大学在学中。北大進学後山スキー部に在籍し、昨夏念願の知床での沢登りを体験。この地に無限の魅力を感じる。「どんな困難な状況でも大自然の中で必ず理解しあえる」



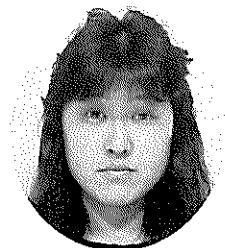
せきね まるか  
**関根 真加**

20歳。元警察犬訓練所勤務。高校時代に渡米、現在自宅に米留学生がホームステイ中といった外国人との生活体験から、さらに自身の興味や世界を広げ、一生の糧となる友を求めての参加。



さと うひとし  
**佐藤 仁志**

19歳。東北大学文学部在学中。「自分に対して挑戦し続けることで、常に前進したい。英語学専攻でもあり国際感覚を試す絶好の機会。外国人と体験を通じ理解しあいたい」



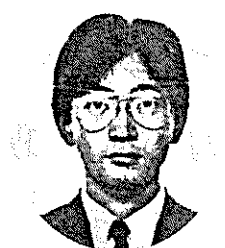
たけなか とみこ  
**竹中 智子**

20歳。昼は身体障害者の指導員として勤務する一方、夜は関西外国語短期大学に在籍。人と人をつなぐ手段である言語の可能性に関心あり。「困難も喜びも体験すべてを仲間と共有したい」



たむら ちよこ  
**田村 千代**

22歳。教育委員会勤務。特技は、華道・民舞。神戸ユニバーシアードをはじめボランティア活動にも積極的に参加。「自然が好きだからチャレンジし、人が好きだから共に活動する」



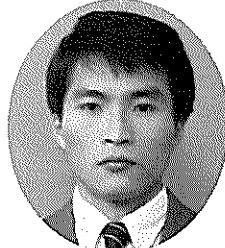
なか よしかず  
**名和 佳夫**

22歳。YMCA学院在学中。『冒険クラブ』というボランティア活動で、子供たちとのキャンプ生活を体験。「ORの体験を通して、自分にとって冒険とは何なのかを発見したい」



おおき かおり  
**大木 香**

20歳。名城大学農学部在学中。アマチュア無線の技能あり。農学の分野から、北海道に深い興味を持つ。「チームワークはもちろん難しいが、集団ゆえのすばらしさはそれ以上に魅力的だ」



まつばら のりゆき  
**松原 徳幸**

22歳。南山大学外国語学部在学中。交換留学生として1年間渡米。気象学に興味あり。「アメリカでの体験を生かすチャンス。会話には自信があるので国境を越えた友情を育てたい」

### サブリーダー

### サブリーダー

堀内一秀 / 桃井和馬

藤本圭太 / 平野裕加里



堀内君

桃井君

北海道プログラムには、サブリーダーとして桃井和馬君と堀内一秀君が参加します。桃井君はOR第1陣として、帆船ゼブ号に乗り英国からバハマまでの航海を体験。激しい船酔いの話や捕鯨論争など、彼の報告はその後のOR参加青年たちの心構えづくりに大いに役立ちました。堀内君は第3陣のバハマ・フェイスに参加。キャット島での洞窟探検、スキューバダイビング、国立公園施設の建設などを体験してきました。



藤本君

平野さん

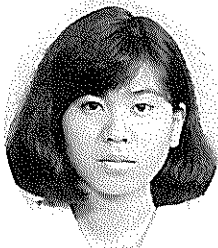
松井君

鈴木君

本州プログラムのサブリーダーには藤本君、平野君、松井君、鈴木君、裕加里さん。アシスタント・プロデューサーには、松井洋一君、鈴木治弘君が選ばれました。藤本君と鈴木君は1985年次組で、オーストラリア・フェイスに参加。昨年7月から9月までの3ヵ月間、ヨーク岬半島を中心としたノーザンテリトリーで活躍しました。グレート・バリア・リーフでのダイビングや、ラ

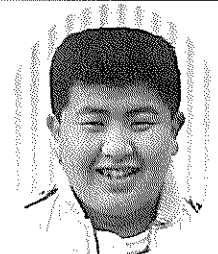
# の日本代表青年決まる

## ラム参加者



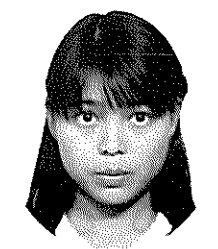
なかむら  
**仲村 まゆみ**

23歳。1985年チリフェイズ参加の加藤さんの体験記（沖縄タイムス連載）を読んで応募。「人種・環境など多くの違いを越えて、人間同志必ず通じあうものがある。体験をぜひ生かしたい」



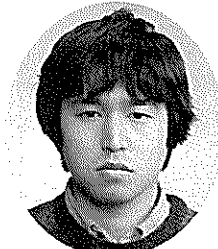
おおいわ たかし  
**大岩 隆志**

20歳。高校卒業後、カナダで寮生活を体験。特技は、剣道・居合道。人類学やコミュニティ活動に強い関心を持つ。「人と交わることが大好き。全力投球で頑張りたい」



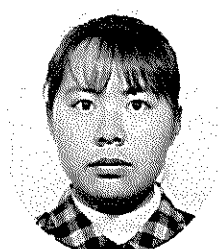
いしかわ りゅうへい  
**石川 陸世**

19歳。愛知県立刈谷高校在学中。1年間オーストラリアに留学。通訳の経験や国連英検を持つ。「無の状態にある私には、将来の肉体的・精神的強さのために愛と経験が必要だと思う」



ひらの あきひろ  
**平野 明宏**

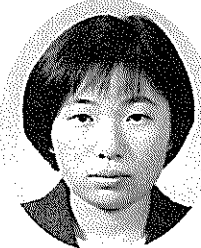
23歳。塾講師。趣味は自動二輪車で知識もある。大学では英米学専攻。「夢は海外青年協力隊員として働くこと。ORに参加できて非常に嬉しい。実体験を通じ自分の英語力も見極めたい」



おおくほ よしこ  
**大久保 佳子**

18歳。大阪府立豊中高校在学中。3年前ORを知り、念願の参加。ワンダーフォーゲル部所属。野外生活一般のほか天気図を読むこともできる。「外国人に少しでも日本を知ってほしい」

## 沖縄プログラム参加者



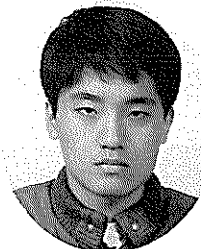
まつお ようこ  
**松尾 陽子**

19歳。大阪市立大学生生活学部在籍。昨夏ファルトボートによる西表島一周を試みたが病気でリタイア。今度こそその夢を実現すべく応募。「プログラムを知り、本能的にやりたいと強く感じた」



のだ りゅうじ  
**野田 隆司**

21歳。琉球大学教育学部在学中。放送部で部長を務める。「日本国内で異文化と接する機会が得られることに魅力を感じた。自分の視野が広がるきっかけになればと思う」



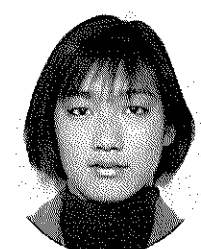
にしはら やすし  
**西原 康**

20歳。琉球大学法文学部在学中。ラジオでこのプログラムを知り応募。「同世代の外国人たちとの共同生活で、日本を再確認し、未知の価値観を知ることでは、視野の広い人間になりたい」



あらい あきよ  
**新井 昭代**

18歳。神奈川県立外国語短期大学付属高校在学中。英語検定2級・英文タイプ2級。スペイン語も。中・高の6年間バレーボール部在籍。特に関心があるのは、登山とコミュニティ活動。



おかもと あきこ  
**岡本 昭子**

19歳。大阪市立大学生生活科学部在学中。日本赤十字救急員の資格を持ち、救急法の技術あり。探検部に在籍し、登山・ロッククライミングはもちろん、洞窟探検や沢登りの経験もある。

## アシスタント・プロデューサー

松井洋一 / 鈴木治弘

## サブリーダー

渡辺道雄 / 郡由起子 / 井田浩二

ポリジニーの壁画探索などの科学調査をはじめとして、国立公園内での奉仕活動にも意欲的に取り組みました。またケアンズに寄港したゼブ号をまじえて、地元の人びととの交流をはかるなど充実した日々を送りました。平野さんは、1984年組で、一昨年の4月から7月にかけてパナマ・フェイズに加わりました。パナマはとくに暑く、サンドフライ（蚊の一種）も多く、かなりの悪戦苦闘を体験しましたが、主に医療や教育奉仕に参加し、現地の人々や行動をともしたベンチャーたちとの交流を深めてきました。松井君は1985年次組で、ニュージーランドに派遣されました。昨年9月から約3ヵ月南島のテアナウを中心としたフィヨルド地帯で登山道づくりや湖の雑草取りに活躍しました。



渡辺君

郡さん



井田君

沖縄プログラムのサブリーダーには渡辺道雄君、郡由起子さん、井田浩二君の3人が決まりました。渡辺君は昨年4月からソロモン諸島でのフェイズに参加、国際赤十字医療センター建設、教育施設の修復、シュノーケル訓練などを体験してきました。郡さん、井田君は昨年12月からのニュージーランド第2次フェイズに参加し、フィヨルドでの科学調査や気象学プログラム、登山道整備などで活躍しました。

## 第1回ORJC 日本フェイズなど検討

本年第1回オペレーション・ローリー日本委員会が2月25日(水)東京で開催され、つぎのような議事および報告が行なわれました。

- 永井委員長のあいさつ
- 1987年次年間活動計画
- ゼブ号来日の日程、行事計画
- 日本フェイズの全体計画
- 日本フェイズ日本人参加青年選考結果報告

## 日本人参加青年の選考

本号2～3面に紹介されている日本フェイズ日本人参加青年の選考結

果がORJCから発表されました。それによると、応募総数は122名で男50名、女72名と女性優位でしたが最終結果は男9名、女11名合計20人が選ばれました。職業別では学生15名、社会人5名です。

## 日本フェイズ用 Tシャツ・帽子など完成

これまで日本代表派遣青年に支給されていたTシャツ、ヨットパーカー、ハッピーなどのほかに、日本フェイズ用に新しくTシャツ2種類、帽子、ネクタイなどをORJCが製作しました。従来同様日本電装(株)の協力でつくられたもので、このほか帆船ゼブ号写真入りの下敷き、ポスタ

一、リーフレットなどもつくられ、ゼブ号の寄港地で一般の見学者にも配布されるということです。



▲新しくつくられたTシャツなど

## 日本代表派遣青年のページ

3月4日から約3ヵ月の日程で展開される豪州ピクトリアフェイズに参加する日本代表派遣青年6名が、2月28日午後8時30分成田空港発のカタス航空機でメルボルンに飛び立ちました。出発前のアンケートに つぎのようにこたえてくれました。

——OR応募の動機は?

金田 国際感覚を身につけたかったからです。

高田 日常からの脱出です。

砂子 海外での冒険活動という言葉にひかれて……。

藤原 自分の価値観をもっとひろげるためです。

田子 一度、アドベンチャーを経験してみたかったからです。

岸 自分の夢の実現のためのワンステップにしたかったからです。

——出発にあたって不安は?

金田 会話が不安です。

高田 まったくありません。

砂子 希望で胸がいっぱいです。

藤原 向こうでちゃんとできるか不安です。

田子 語学力に不安があります。

岸 ほとんど初めてのことばかりなので多少心配だがなんとなくかなると思っています。

——ORに対して家族、友人は?

金田 応援してくれています。

高田 理解しています。

砂子 家族は気をもんでいます。友人はうらやましがっています。

藤原 うらやましがっています。

田子 賛成しています。



岸 暖かく見守ってくれ、応援してくれる人がほとんど。

——参加にあたっての抱負は?

金田 自分のすべてをかけます。

高田 単なる「冒険ゴッコ」にならないように活動したいと思います。

砂子 やれるだけのことはすべてやってきます。

藤原 海外のベンチャラーにひけをとらないよう頑張ります。

田子 スキューバダイビングが楽しみ。できればリーダーシップを発揮したい。

岸 いろいろなことを経験して吸収していきたい。

——これまでの準備は?

金田 言語、体力アップ、装備の充実。

藤原 ダイビングの習熟。

田子 キャンプ用品ぞろえ。

岸 ダイビング技術を一層磨きま

した。

——やり残したことは?

金田 親孝行。

高田 オーストラリアに関する学術的知識の勉強です。

藤原 基礎体力アップをもうすこしやりたかった。

田子 英語の勉強、現地の調査。

——現地で何を主眼に?

金田 民族を越えて理解しあいたいものです。

高田 日本人というより人間として行動してみたいと思います。

砂子 大自然に親しむ、友だちをつくること。

藤原 海外ベンチャラーとの交流。

田子 さまざまな人々との交流を通じて、真の国際化とは何かについて学びたい。

岸 できるだけ先入観なく見聞きし、体験し、そのままもち帰って日本でまとめてみたい。

——これから出発する人々へのメッセージは?

金田 すべてを受け入れられる態勢づくりが大切です。

高田 日本のエスタブリッシュメントは「冒険的な活動」にあまり理解を示さないと思うのですが、もっと反発してください。

藤原 負け負けせず、自分のやりたいことをやりとげる精神が大切だ。

田子 精一杯がんばってください。下調べを忘れないで……。

岸 日本人の「生活の知恵」を身につけておくとよいと思います。